



# 快晴に恵まれた秋の遠足

11/16、この日は雲一つない日本晴れ。参加者が多いので、雨天だとちょっと困るなと思っていましたが、みごとな快晴に恵まれました。参加者は40名（大人36人、小学生2人、幼児2人）と当初の予想より大幅増。JR奈良駅で点呼を取った後、オリーブの旗を持った遠足幹事の2人でグループの前後を挟んで三条通りを東大寺方面へ向かいました。途中、興福寺の前で全員で記念撮影。歩いていると汗ばむほどのボカボカ陽気でした。

中谷堂のお餅の誘惑や奈良公園で鹿と戯れたりとのんびり散策しながら歩いていたら、東大寺に到着したのはすでに12時半ごろ。日曜日もあってか、大仏殿は観光客で大混雑。集合場所、時間だけ決めて個人で見学してもらいました。その後、猿沢の池まで戻って周囲の広場で皆でランチタイム。ここまでで8,000歩ほど歩いていたので皆さん、かなりお疲れだったと思います。

昼食後は帰りの電車に合わせて集合時間を共有しましたが、ほとんどの参加者は小グループで別行動するということでお食事、昼食後解散に近い形になりました。

きっと、皆さんもっと寄りたいところがあったのでしょうか、初めて奈良に来た人も多く、お土産も買っていなかったでしょうか。最後は10名ほどで近鉄電車で帰路につきました。

この日の夜は皆さんぐっすりと眠れたに違いありません。お疲れさまでした。（豊村）



## わたしの地元 #3 HaNoi デインチャン

### ハノイ 愛する街、平和の街

私は日本に来て20年以上になります。これまでいくつもの都市で暮らし、働いてきました。でも、毎年必ず一度は生まれ故郷のハノイに帰ります。ハノイという名前は、漢字で「河内」と書き、「川の中にある街」という意味です。“Red River”と言う川はハノイをはじめ、ベトナム北部を流れ、肥えた土を運び、人々の暮らしを支えてきました。川の周りには、今も有名な伝統的な職人の村がたくさんあります。バット・チャンの陶器、ハ・ドンのシルク商品の村、ヴォン村の若草餅、チェム村のソーセージ、ドン・ザム村の銀細工、ゴー・ザー村の銅器など。また、竹細工の工芸品は海外でも人気があります。



私は歴史が好きで、ハノイの歴史はいつも私の心の中に似ています。広島のように戦争で大きな被害を受けています。爆撃機による空襲を受けました。京都のように多くの寺院があり、古い街並み、文化の伝統を守っている町です。さらに、ハノイは首都として、政治・経済の中心地で、東京にも似ています。何より、私はハノイの人々を愛しています。ハノイは国の中心であり、ベトナム人の最も美しい姿を象徴しています。1999年、ユネスコ(UNESCO)はハノイを「平和のための都市」に認定しました。安全な首都として、多くの大統領や首相がハノイを訪れます。オランダの前首相は還剣湖(ホアンキエム湖)のそばで自転車に乗りました。オバマ元大統領は人気のブン・チャー店に入り、地元の人と一緒に食事をしました。フランスの大統領も街を歩き、笑顔で人々と語り合いました。



ハノイには、日本と同じように春夏秋冬の季節ごとに楽しめる料理がたくさんあります。温かい料理から冷たい料理、甘いものから辛いもの、新鮮な果物からドライフルーツまで、さまざまです。有名な料理には、ブン・チャー、生春巻き、バイン・クオン（蒸しもち米ロール）、チュー・サウ（デザート）、西湖の蓮茶。特に、ハノイのフォーは単なる郷土料理ではありません、ベトナムの文化そのものです。味わい深く、食べ方も繊細で、ハノイの人々の心のように深い味わいがあります。秋にハノイを訪れたら、路上の花売りの風景も見逃せません。伝統的な帽子を被った売り手の明るい笑顔は美しく穏やかです。ハノイの人々は常に家に美しい花をよく飾ります。毎日、家族の愛を感じ、子どもたちは美しいものを愛し、より優しい心を持つようになります。遠くにいる人も、ハノイを思い出して帰ります…そんな暖かい街です。最後に私の大好きな歌の歌詞で、愛するハノイを締めくくります。

私が生まれた場所、ハノイ  
私が生まれた日、燃えるような一日  
小さな路地と街、そこに私の家があった…  
…サッソウラの花の香りのように、甘く魅惑的  
私の足跡は多くの道をたどった  
いつか帰る日を願いながら、  
ハノイよ！







